

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 10 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	0590300059
法人名	合資会社大森衛生社
事業所名	グループホーム 樹の里おおもり
所在地	横手市大森町字町田39番地1 電話 0182-26-8930
評価機関名	秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田市東通三丁目9-31
訪問調査日	平成21年10月27日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の生活リズムに沿ったケアが実践され、利用者の個別対応にも取り組んでいます。利用者・スタッフは「共に行き・時には家族・友人」として一緒に時間を共有する関係の構築を目標にしています。ホームの構造も居間兼食堂の大きな窓からは四季の変化を感じ取れる風景、高い天井からは採光が降り注いでいます。又、利用者の誕生日には手作りケーキでお祝いをしています。スタッフ同士も楽しみながらケアを行い意思疎通は良く保たれています。

【情報提供票より】 (21年09月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤15人, 非常勤1人, 常勤換算15.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	平屋造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900円

(4) 利用者の概要 (H21年9月27日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5			要支援2		
年齢	79.5歳	最低	65歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横手市立大森病院 医療法人義業会曾根医院 医療法人石成歯科医院
---------	---------------------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘されたモニタリング等に関しては、その後のスタッフの討議で改善されていました。又、ケア記録等も見易くなっていました。外部評価を契機にスタッフの共同作業としての業務改善がなされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価はスタッフで討議し管理者が作成していました。スタッフは外部評価に取り組むことで現在の到達点及びケアのよりよい改善を目標にした新たな課題・テーマを共有する契機になっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	頻度は少ないのですが運営推進会議は定期的には開催されています。地域代表・民生委員・包括支援センター及び利用者家族代表及びホーム代表社員等で構成されています。そこでは、事業内容・介護保険制度及び行事等についての討議が展開されていました。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に利用者家族代表が参加しています。スタッフは日常的にも家族の面会時に希望・要望を引き出す努力をしています。家族とのコミュニケーションは良く取れ、信頼関係も構築されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の行事及びホームでの行事時には地域住民との交流があります。地域の子供との交流も意識的に取り組んでいます。ホームとしても地域住民との結びつきをより高めるための努力もなされています。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念に基づき利用者へのケアが行なわれています。それは地域住民との関わりを含む意味合いも含まれています。今後はホームの理念の見直しが予定されており、地域密着型サービスとしての理念をより明確にする方向です。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ及び管理者は日常会話・活動の基礎にホームの理念にしています。利用者の生活リズムを尊重したケア実践を大切にしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の夏祭りや協力医療機関併設の行事に積極的に参加しています。ホーム行事時には地域住民等の方に参加を呼びかけています。又、地域の子供との交流も大切にしたり取り組みが行なわれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ及び管理者は共同作業として外部評価に取り組み、その意義を理解しています。そこでケアを振り返ると共に新たな課題を見出す機会として理解しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者家族・地域代表・民生委員及び地域包括センターとホームスタッフにより構成されています。そこでは事業報告・生活環境整備等について活発な討議が展開されています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センタースタッフとの定期的な交流が保たれています。又、日常的にも情報交換等が行なわれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に家族には利用者の生活状況について写真等を含めての報告が行なわれています。時には家族からの返信もあります。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時等に利用者の生活の様子を伝えると共にホームでの生活に対する要望を引き出す取り組みが意識的に行なわれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動があった時は面会時に家族に紹介をしています。又、新人スタッフに対しては利用者との信頼関係が構築される迄はケア内容によっては他のスタッフが協力して行い利用者の不安等を解消する取り組みが行なわれています。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでは感染対応等のテーマで定期的に勉強会が開催されています。外部研修にも積極的に参加しています。又、その成果をスタッフに伝達学習もなされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議が年に2～3回開催されています。そこでは事例検討や情報交換が行なわれ交流も深められています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用者及び家族とは、事前の見学時等から面接を行い顔馴染みの関係を構築する取り組みを行なっています。又利用当初はホームの生活に馴染むまで意図的に面会等の協力も依頼しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活背景をスタッフが理解し利用者の特技を引き出したり・言葉（方言）を受け止め利用者の視線で向き合っています。そして利用者のペースを尊重した生活リズム・生活内容を大事にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントから利用者の以前の生活様子等を把握しています。家族からも面会時等に希望を引き出すように努めています。外泊を行っている利用者もいます。買い物及び外食等にも可能な限り希望を取り入れるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフは定期的なアセスメント・モニタリング・カンファレンスを実践し利用者の生活状況及び家族の希望等を把握しています。それがケアプランに反映されケア方針等が共有されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月を目安にケアプランの見直しが行なわれています。勿論利用者の状況に変化があった時はその都度の見直しが行なわれています。モニタリング及びアセスメントはスタッフの活発な討議が展開されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族の希望等があれば臨機応変な対応がなされています。家族が車で来るのが大変であれば送迎を行っています。また、介護保険上における諸通知等で理解が困難な場合は、説明対応で理解の援助等が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望とする医療機関等からの訪問診療及び受診により治療を継続しています。又、送迎・薬の受け取り等はスタッフがこなしています。受診結果等は家族に報告しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階では終末期医療には取り組んでいません。利用時に家族にホームで出来ること・出来ないことを説明し同意を得ての利用になっています。今後の対応については継続して検討を行なう予定です。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時にプライバシーの確保についての研修が行なわれています。又利用者のケアの中でも言葉かけ等自尊心を傷つけないように十分に注意しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を叶える努力をしています。具体的には買い物や家族との外出・理髪等があります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルにより可能な範囲で食材の下ごしらえ等の役割があります。又、利用者の希望がメニューに取り入れられる対応が行なわれています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則は1週間に2～3回の入浴です。希望があれば毎日の入浴も可能です。利用者の状況により清拭等が行なわれ清潔保持に努めています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにより個々人の趣味・特技等を把握しその能力を引き出す取り組みがおこなわれています。行事時に利用者が来賓者に抹茶を立てたりしており、利用者の日々の生活での「生活の質」の向上を大切にしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでの外出もありますが家族との個別的な外出もあります。横手市・山内村等へ外出し、外食も楽しんでいます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	ホームでの施錠はありませんでした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定したスタッフの連絡訓練、消防署の協力での避難訓練が行なわれています。まもなくスプリンクラーの設置が予定されています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士から食事のバランス等についての助言を得ることが可能です。メニューにも利用者の意向を汲み取るシステムがあります。又、利用者の状況により食形態の対応もなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくて広い居間兼食堂には十分な採光が入っています。又、窓からは自然の変化を感じ取ることが出来ます。ホーム内もバリアフリー及び必要な箇所には手すりが設置されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前に利用していたタンス等家具の持ち込みがあります。又、利用者の部屋には名前にちなんだ花が飾られる等生活空間にも配慮が行なわれています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。